

研究課題 (テーマ)

ファッションと色彩心理学の関係性

研究領域 (任意)

人文科学系

研究の目的

いつも無意識に選んでいる服の色は他人、もしくはどのような影響を与えているか知るため。

仮説

TPOによって服の適切な色は変化していく。

結論

色彩とファッションは引き離せないほどの関係性を持っており、私達は無意識のうちに服を選ぶ、もしくは見る上で色彩のことを意識している事が考えられた。

また、その特性をうまく活用することでより自分にあったファッションを見つけ出せるということも知れた。

根拠や考えを証明する研究の方法

- ①インターネットや書籍などで色を与える印象の違いを調査する。
- ②ファッションに関係がありそうな色の特性を調べる。
- ③状況によって映える色の違いを調べる。

結果

研究①

主な例

色名	色のイメージ	連装できるもの
黒	落ち着き、都会的な	夜空、喪、タイヤ
白	りりしい、清潔	清潔、凛々しい
赤	情熱的、派手な	トマト、血液、火
緑	若さ、健康	森林、自然、
青	堅実、広大	宇宙、海、空気

鈴木千恵子 (2005)、『色の好き・きらい』より一部引用

色を与えるイメージは様々である。

※戦隊シリーズでは、リーダーの色は赤で正義感や行動力が人一倍強いというあかのイメージと重なる。

研究②

膨張色と収縮色

明度の低い色 (青、黒、緑) を収縮色。

明度の高い色 (赤、オレンジ、黄など) を膨張色と言う

身近な例

囲碁の碁石は、「白石が直径 21.9mm」、「黒石が直径 22.2mm」で作られている。

これは白石と黒石を同じ大きさにすると白石の方が大きく見えてしまい、基盤上で白が有利に見えてしまうから。

ファッションに置き換えると

膨張色→ぼやけて見える。(ゆったりとしたイメージに)

収縮色→引き締まって見える(スリムに)

例：黒いストッキングは足が細く見える効果があり人気。

感情に影響を与える

「特定の感情のときに見たい色、見ると心が変化する色」(ポーポー・ポロダクション著決定版色彩心理図鑑より)がある。

研究③にファッションに置き換えた場合での色と状況の具体例

研究③ **その場その時にあった色**

交渉時→黒 (知的さ重鎮さを与える)

初対面時→白 (清潔感や爽やかな印象を与える)

面接時→青 (冷静な印象を与え、自分自身を落ち着かせる)

考察

研究①③より：色による印象の違いは様々である。その与える印象をファッションに活かすことで、よりその場その時に合った服装になる。

研究②③より：色の見え方には特性があり、その効果はファッションにも影響を与えている。うまく活用することで自分にあったファッションをみつけることがより簡単になる。

参考文献

ファッションと色に関する調査 池田 美涼 (文教大学 情報学部メディア表現学科)

<https://baralog.com/explain-coordination-by-color-psychology/>

決定版 色彩心理図鑑 ポーポー・ポロダクション 株式会社日本文芸社